

南海トラフ地震時医療救護活動体制の目指す姿【津野町】

〈目指す姿〉

- 限られた地域の医療資源を最大限に活用するとともに、地域住民と一体となった総力戦による医療救護体制
- 隣接の市町(須崎市、佐川町、越知町、仁淀川町、梶原町、中土佐町)と負傷者や避難住民の移動等を踏まえた広域的な医療救護体制

患者の流れ(予測:破線は市町外への移動)

【津野町】

- *診療所(無床):3ヶ所⇒医療救護所①②③
医師3名
- *薬局:2ヶ所

★特徴:津波被害がないものの、医療資源が乏しい

【姫野々地区:葉山小学校区】

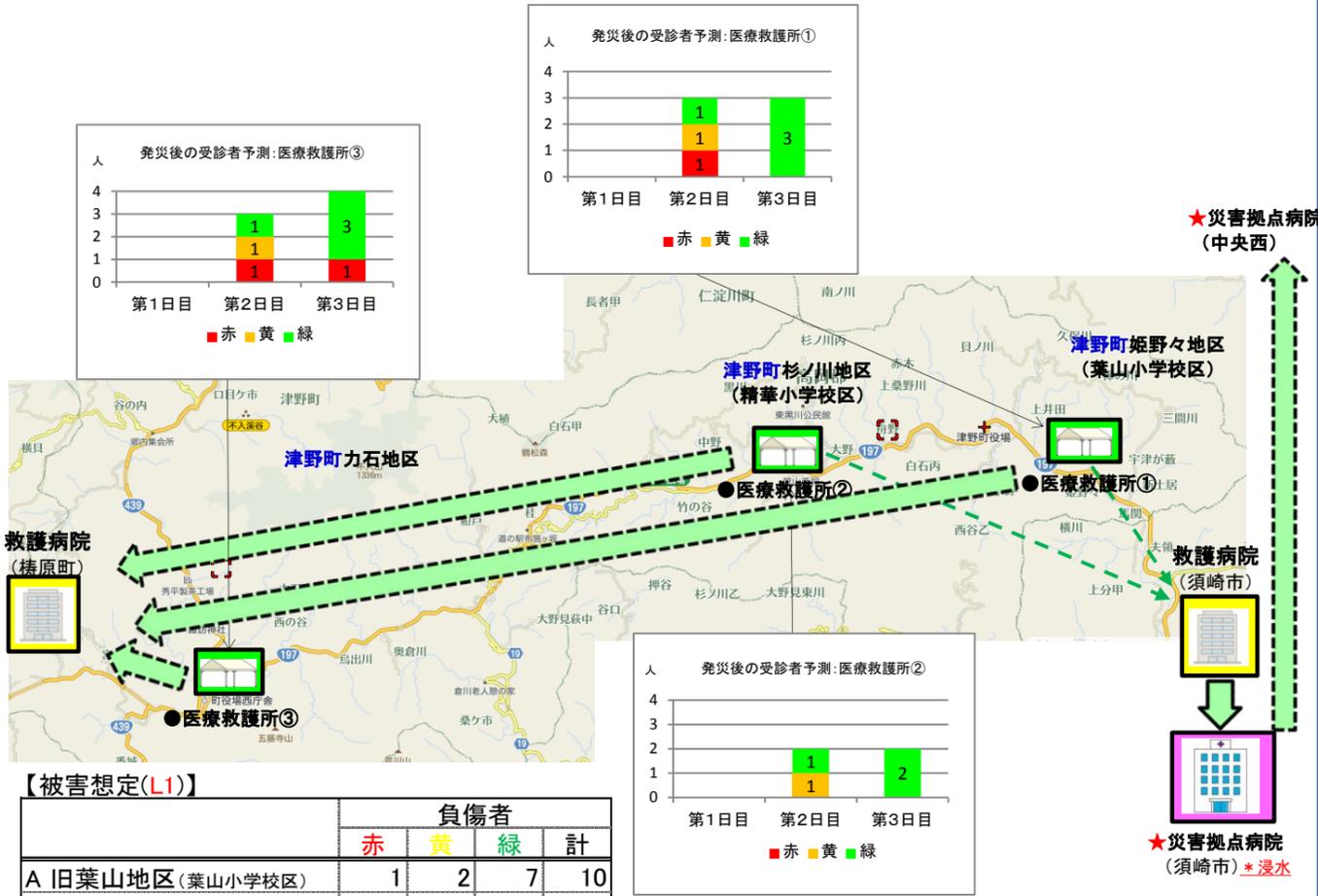
- ・医療救護所として診療所を活用
- ・医療従事者の不足

【杉ノ川地区:精華小学校区】

- ・医療救護所として診療所を活用
- ・医療従事者の不足

【カ石地区】

- ・医療救護所として診療所を活用
- ・道路寸断により孤立する可能性あり



【被害想定(L1)】

	負傷者			計
	赤	黄	緑	
A 旧葉山地区(葉山小学校区)	1	2	7	10
B 旧葉山地区(精華小学校区)	0	2	6	8
C 旧東津野地区	2	2	8	12
計	3	6	21	30

■ 医療救護施設における受診者予測(負傷者:発災後3日間)における設定条件

- ①県の南海トラフ地震被害想定(L1)における負傷者数を使用
- ②発災後3日間に、トリアージ区分「赤」80%、「黄」70%、「緑」60%が受診すると仮定
- ③東日本大震災における石巻赤十字病院の受診者数推移をモデルとして算出

※ 急性疾患患者(救急患者)や慢性疾患患者(要医薬品)は含まれていない点に留意

